



県内の「道の駅」のフロアプレート。いずれも個性豊かな

観光をアシストする「道の駅」の魅力とは？

「道の駅」を知らない人は、まずいしないでしよう。全国に1145駅、栃木県内には24駅(2018年4月現在)が設置され、休憩や地産地消、地域情報発信など、さまざまな役割を果たしています。平成5(1993)年4月に最初の道の駅が誕生してから、約4半世紀。地域にも、私たちの生活にも、すっかり根づいた道の駅について、その役割や意義などについて紹介します。

PART 1

新鮮な野菜や豊富な地域情報、数々の物産品に出会える「道の駅」



図1/道の駅の基本機能

最初に「道の駅」の役割や栃木県内の状況について調べてみました。

栃木県内の道の駅は「栃木県道の駅連絡協議会」に所属しています。そこで、まず同協議会事務局にうかがいました。同協議会は、栃木県中小企業団体中央会内に事務局があります。事務局の武田晃夫さん(栃木県中小企業団体中央会事業推進部 主幹兼部長補佐)と、寺内郁絵さん(同事業推進部 主事)から、ていねいに教えていただきました。

Q 道の駅の役割は何ですか？

武田 道の駅の目的は「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興に寄与」の2つ。それを踏まえて3つの役割があります。「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」です。逆に言えば、これら3つの機能を持つことが、道の駅の基本ということになりますね(図1)。

「休憩機能」は24時間、無料で利用できる駐車場やトイレがあることです。旅行やドライブでもっとも困ることをサポートするのです。

「情報発信機能」は道路情報や地域の観光情報、緊急医療情報などを提供することです。道路地図や観光パンフレット配布だけでなく、最近ではIT技術を活用した情報提供も増えてきました。「地域連携機能」は文化教養施設、観

武田 24の道の駅それぞれが特徴を持っていますが、それぞれが地域情報発信や地域ブランド発信などに力を入れています。各駅の努力のおかげで、全国的にもレベルの高い県になっているのではないのでしょうか。道の駅といっても全国さまざまで、中には非常に簡素な駅もあります。旅先でそういう道の駅に入ると、栃木県の良さを実感します。

また「しもつけ」「どまんなかたぬま」「ろまんちっく村」など、全国でもトップレベルの売り上げを上げている駅もあります。地理的には首都圏から近いことも、大きな利点と言っていでしょう。

また、ほとんどの道の駅で、地元産の農作物を販売しています。これらが大変人

気があります。新鮮で安い、種類も豊富というのが人気のポイントですね。

農作物だけではなく、地元の名産品を道の駅で販売することによって、新たな人氣を呼び起こすケースもあります。「きつれがわ」の温泉パンなどは、良い例ではないでしょうか。

寺内 栃木県の道の駅には「そこでしか買えないもの」がたくさんあり、それが魅力です。ジェラートやスイーツのメニューだけをとっても、それぞれ特色があつてとても面白いですよ。

Q 栃木県道の駅連絡協議会の役割について教えてください。

武田 協議会は平成16(2004)年に設置されました。発足当時の県内の道の駅は現在の半数、12駅でした。

協議会の目的は、栃木県内の「道の駅」相互の情報交換やイベント広報活動、施設運営に関する研修や調査研究を行うことで、施設利用者に対するサービスの向上を図り、あわせて「道の駅」を核とした地域振興に資することを目的として、活動しています。

協議会発足にあたっては、県内第1号「もてぎ」の古口達也町長様のご尽力が大変大きかったと聞いております。他に先駆けて道の駅同士の横のつながりを持ったことが、その後の全体のレベルアップ

光レクリエーション施設などの地域振興施設を設置することです。具体的には地域の物産を販売したり、レストランを運営しているところが多いですね。

Q 栃木県内の最初の道の駅はどこですか？

武田 一番最初は、国道123号沿いにある「もてぎ」でした。平成8(1996)年4月のことです。道の駅としての3つの役割だけでなく、地域活性化の牽引役としても大きな成果をあげています。

寺内 いちごを使ったジェラートやバームクーヘンなど、人気商品を続々開発し、茂木町全体のブランド発信の役割も担っています。ちなみに最新の道の駅は「ましこ」で、平成28(2016)年5月です。益子町は「益子焼」が全国ブランドですから、建物もそれをイメージさせるデザインになっています、とても素敵です。

武田 実は、正式に「道の駅」が発足する前に社会実験として、全国12カ所に「道の駅」が設置されたのですが、そのうち3カ所は栃木県内なのです。河内町(現・宇都宮市)、上三川町、南河内町(現・下野市)です。平成3(1991)年から翌年にかけて、約9カ月設置されていました。その意味でも栃木県は「道の駅」にゆかりが深い県と言っていでしょう。

Q 栃木県内の道の駅は、他県と比べてどんな特徴がありますか？

宇都宮市の「うつのみやろまんちっく村」のように、もともとは農林公園だったところが、平成24(2012)年に機能を充実させて「道の駅」になったことで、より広い層にアピールできたところもあります。多くの駅にはレストランもあります。ここでも、地元の特産品を活かしたメニューが中心です。

こうしてみると「道の駅」には、昔で言えば「宿場」の持つ機能がそろうていることに気づきます。交通の要所であり、市場があり、人々の交流場所があり、さまざまな情報にも触れることができる——「道の駅」の魅力は、こうした幅広い機能が1カ所にある利便性も、大きいのかも知れません。

続くPART2では「どまんなかたぬま」にお邪魔して、さらに詳しく話をうかがいます。

事務局のお二人の話をうかがっていると、「道の駅」が観光客にとって便利であるだけでなく、「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3機能の上で、それぞれ独自性のある取り組みをしていることが分かってきました。

特産品の販売にしても、地域で生産している方々にとっては、ワンステップもツーステップも上がる大きなチャンスにつながっている、大切な場なのです。「もてぎ」の例のように、それが地域ブランド確立、発信につながる、多くの観光客を呼べるところこま

地元や近隣の野菜、名産品、特産品などが販売されているのも大きな魅力(写真は「どまんなかたぬま」)





農産物直売所 朝採り館



新鮮な野菜がならぶ直売所

PART 2

「道の駅どまんなかたぬま」は、地域の核となる「駅」に

「道の駅どまんなかたぬま」。この印象的な名前は、佐野市の田沼地区に日本列島の中心があることに由来します。オープンは平成13(2001)年11月。県内9番目の「道の駅」でした。運営会社は「株式会社どまんなかたぬま」。社長は、百貨店業界で30年の経験を持つ篠原敏秀さんです。篠原社長の話を交えながら、「どまんなかたぬま」をご紹介します。



株式会社どまんなかたぬま 代表取締役社長 篠原敏秀さん

ながら風景を楽しみむ人たちも多く見られます。

■その他

敷地内にある「足湯」は無料で楽しめる人気施設です。また子どもに喜ばれるミニSLや遊戯設備などが置かれたふれあい広場には子どもたちの歓声が絶えません。一般の人が会議やイベントで利用できる

まずは「どまんなかたぬま」がどんな「道の駅」なのかを見ていきます。

■休憩用施設

駐車場は大型車22台・普通車420台・身障者用10台・二輪車専用30台・EVスタンド1台の合計483台の広さとなっています。

平成28(2016)年に地域の防災拠点として屋根付き駐車場を設置、雨や炎天下でも快適に駐車できます。さらに太陽光パネルを載せて発電し、電力会社に販売しています。

「どまんなかホール」「会議室」は、非営利活動であれば低額料金で利用できる施設で、勉強会や会議などさまざまなに活用されています。これも「道の駅」に求められる地域連携機能です。

篠原社長は「どまんなかたぬま」の立ち上げの時点から関わり、現在の姿まで育ててきた中心人物です。当時の苦労を振り返っていただきました。

「現在でこそ道路が整備され、高速のインターも近い立地ですが、整備計画が立てられた当初は、周囲は農耕地で、観光ルートからも離れていましたので、ずいぶん反対もあったと聞いています。

田沼町の近隣には佐野市があり、足利市からも車で20分くらいです。周囲にはたくさんの方が生活していましたから、や

24時間利用可能なトイレ「オアシス」の他に、施設内にもトイレを設置。トイレ内にはベビーベッドや多目的(身体障者用など)もあります。

■販売施設

「道の駅」と言えば、やはり新鮮な野菜でしょう。「どまんなかたぬま」も、選り抜かれた新鮮野菜が魅力です。

農産物直売所「朝採り館」は、地元を中心に新鮮な農産物を販売しています。価格も安くおさえて、地域の人が購入できる店となっています。また農産物だけでなく、パンや饅頭などの加工品も販売していますが、これらも多くは地域の名産品です。中心施設である「ふれあい交流館」の中には、特産品「彩り館」があります。ここでは「どまんなかたぬま」オリジナル商品をはじめ、地元銘店産品や、全国から集めたこだわりの商品がそろっています。

り方によっては成功すると考えました」

成功のために必要なポイントは、どんなことだったのでしょうか。

「ライバルとなる商業施設にないものを揃えれば良い、と思いました。そこで決めたのが、

- 地産地消
- 手作り、無添加
- 適正価格

という基本方針です。これらに従って品揃えを進めていけば、地域活性化の役に立ち、経営面でも収支が黒字になる施設にできると考えたのです」

また篠原社長は、この地域にはいいものを手作りしている人たちが多くと気づきました。「お赤飯やお餅、お漬物、おまんじゅうなど、あちこちでおいしいものを手作りしている人がいたのです。けれどもその人たちが作っていた量は、自分や親しい人たちの分だけでした。せいぜいイベントに出品する程度で、まったくビジネスになっていませんでしたし、そのつもりもなかったようです。道の駅での販売の話をして「こんな、どこにでもあるようなもの、売れないでしょう」と笑われました」

篠原社長は、これはと見込んだ農家や生産者のところに日参し、お願いし続けました。最初は誰も首を縦に振りませんでした。そのうちに篠原社長の気持ちを受け止め、出荷を約束してくれる人が増え始めました。

これらの商品についても、篠原社長以下のスタッフが1つずつ吟味して仕入れたものなのです。

篠原社長は品ぞろえについて「農産品は、当初は田沼町のものだけに限定していましたが、しかしお客様のニーズや利便性を考えて、足利市や佐野市など周辺の地域からも仕入れるようになりました。現在は、もちろん中心は田沼町ですが、ニーズに合わせて、全国から仕入れており、バナナなどごくわずかな品を除いては、すべて国産品です。これはしっかりと守っていくつもりです」と話しています。

■飲食店

レストランは「CHINESE DINING 花と華」と「和洋食レストラン はなみずき」があり、どちらも人気の味を誇っています。

また敷地内ではカレーパンやだんご、たこ焼き、ジェラートなどさまざまな食べ物も販売されており、おやつや軽食を味わい



特産品 彩り館

「初めの頃は、農村レストランなどの店舗から、道の駅で農産物や名産品を販売することへの反対意見も出ました。ここで売ると、自分たちの店が立ち行かなくなるといったのでした。私は「そうではありません。一般の人が利用してくれる道の駅で販売すれば、その野菜や商品のファンになった人たちが、今度は皆さんの店に行くのです」と説得しました。1年後には「いや、社長の言う通りでした」とおっしゃっていただけなのは、うれしい思い出です」

観光だけでなく地域全体の「駅」

創業から平成28(2016)年度まで、売上高はほぼ右肩上がりでも推移してきました。また利用者数も同じく右肩上がりです。平成29(2017)年度は約214万人。開業した翌年の平成14(2002)

年が約82万人でしたから、約2.6倍に増えていくことになります。

「どまんなかたぬま」が実力をつけるに従って、周辺の地域や商業施設とのコラボレーションも行われるようになりました。イオンモール小山店に「農産物直売所どまんなかマルシェ」を出店したり、佐野アウトレットに出店しているアイデアとの連携企画を実施するなど、さまざまに広がっています。

地域貢献活動も積極的に行っています。特に移動スパー「とくし丸」は、買い物に苦労しているお年寄りの住む地域を定期的に回って野菜などを販売し、多くの人から感謝の声が上がっています。

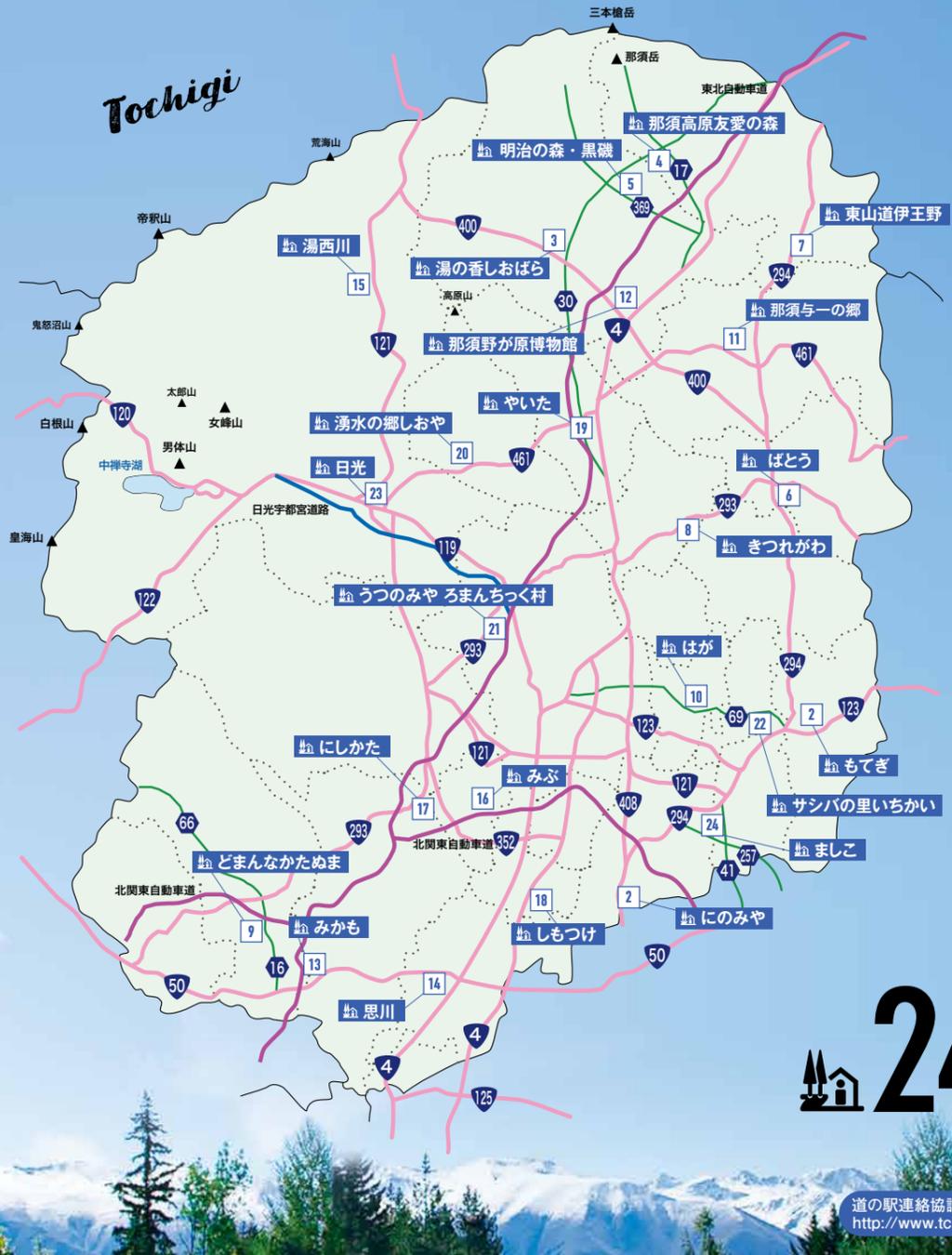
「移動スパーは、すぐにやろうとしてもできません。私もこれまで培った生産者との信頼関係や、さまざまなコネクションがあるから、きちんとした品揃えで定期的に回ることができると話す篠原社長。これまでの歴史があるからこそ、地域貢献活動なのです。」

「私は東武宇都宮百貨店に長く勤めていたもので、そこで培ったノウハウを道の駅の経営に役立てようと決心しました」

篠原社長のことはとおり、「どまんなかたぬま」は単なる「道の駅」ではなく、地域の核施設として、多くの人に喜ばれています。今後もさらに発展することで、観光だけでなく地域全体の活性化のための「駅」として活躍してくれるに違いありません。

「こんなにあるのー」とびっくり、ワクワク！

栃木県内には道の駅が24カ所あります。その全てを、マップと簡単な文章でご紹介します。ぜひ全駅めぐりに挑戦してください！



24 Tochigi Michi no Eki

道の駅連絡協議会 WEBサイト
http://www.tck.or.jp/michinoeki/

8. きつれがわ
さくら市喜連川4145-10
☎028-686-8180

道の駅「きつれがわ」にはクアハウスもある本格的な温泉施設が併設されている。日本三大美肌の湯と呼ばれる、良質な天然温泉が楽しめます。平成 29 年 4 月に「立ち寄り場所から目指す場所へ」をテーマに、癒しと食と情報の交流拠点として全面リニューアルが行われました。「大正ロマン」の雰囲気の中新しい魅力や楽しさがぎゅっと詰まった道の駅です。

7. 東山道伊王野
那須郡那須町大字伊王野459
☎0287-75-0653

道の駅「東山道伊王野」は、奈良時代からの古い歴史を持つ旧東山道が名の由来となっています。この駅の特徴は何と言っても直径 12mの大きな2連水車。そして地粉を使った「挽きたて」「打ちたて」「茹でたて」の美味しい手打ちそばです。物産センターには八満山麓の豊かな土壌で育てられた美味しいお米や野菜、加工品などが豊富に並びます。

6. ぼとう
那須郡那珂川町北向田181-2
☎0287-92-5711

道の駅「ぼとう」は、直売所の新鮮野菜は安いと人気。「ぼとう手作りハム」などの加工品も豊富。さらに「生クリーム大福」など地元菓子店の人気スイーツに、小砂焼などの工芸品類もたくさん並びます。レストランでは話題のお肉「八溝ししまる」も味わえます。「観光センター」に行けば地元ならではのおすすめ情報が手に入るかも。

5. 明治の森・黒磯
那須塩原市青木27
☎0287-63-0399

道の駅「明治の森・黒磯」には、明治時代の開拓者の一人、青木黒蔵子爵の那須別邸があります。四季の花が咲き誇る「ハンナガーデン」とのコントラストが素晴らしい、撮影スポットとしても大人気です。ファームマーケットでは地元の新鮮野菜やとれたて美味しい牛乳、さまざまな乳製品が購入できます。レストランやアイス工房、パン工房とともに、季節ごとの旬のグルメをご提供します。

12. 那須野が原博物館
那須塩原市三島5-1
☎0287-36-0949 (博物館)

道の駅「那須野が原博物館」は、地域情報の発信と文化交流を目的としている道の駅です。「那須野が原の開拓と自然・文化のいとなみ」をメインテーマに、歴史や民俗から自然、美術まで幅広く地域文化を紹介しています。また年間を通して、さまざまなテーマの企画展や、ものづくりなどの体験教室を行っており、那須野が原の自然や文化を体感していただくことができます。

11. 那須与一の郷
大田原市南金丸1584-6
☎0287-23-8641

道の駅「那須与一の郷」の名は、源平合戦で活躍した弓矢の名手・那須与一から。地元生産者が朝採りした新鮮野菜をはじめ、大田原市の観光物産が豊富にそろっています。人気の手作りジェラートは定番メニュー以外にトウガラシや鮎、ごぼうなど、他ではなかなかお目にかかれない味が楽しめます。レストランの地粉100%の手打ち蕎麦、地元新鮮食材によるお惣菜や弁当類も、大変魅力です。

10. はが
芳賀郡芳賀町大字祖母井842-1
☎028-677-6000

道の駅「はが」の直売所では町内の生産者が作った果物や野菜が、お安く販売されています。物産館には地元の特産品がいっぱい。地元食材のお惣菜、ベーカリーの焼きたてパン、季節の果物がたっぷり入った手づくりジェラートも好評です。さらに、人気の日帰り温泉施設「ロマンの湯」が併設されています。泉質の違う2種類の源泉が売りで、本格的な天然温泉を手軽に楽しめます。

9. どまんなか たぬま
佐野市吉水町366-2
☎0283-61-0077

日本列島の東西南北の基準点を線で結び、その線が交わる中心点（「どまんなか」）が佐野市（旧田沼町）にあります。だから「どまんなかたぬま」なのです。和洋食のレストラン、季節の果物がたっぷり入った手づくりジェラートも好評です。地元新鮮野菜や特産品はもちろん、全国各地のパラエティに富んだ逸品もあります。家族みんなが楽しめる、エンターテイメント型道の駅です。

16. みぶ
下都賀郡壬生町大字国谷1870-2
☎0282-82-3591

道の駅「みぶ」は県中央部、北関東自動車道壬生ICのそばにあり、パーキングエリアとして高速道路からも利用できる県内初の「ハイウェイオアシス」です。メイン施設となる「みぶハイウェイパークみらい館」には、地域の食の魅力が詰まったレストランや栃木ならではのお土産が揃う物産コーナー、農産物直売所などが備わっています。

15. 湯西川
日光市西川478-1
☎0288-78-1222

道の駅「湯西川」は、平家落人の伝説で名高い秘湯・湯西川温泉の入口に位置し、野野鉄道会津・鬼怒川線「湯西川温泉駅」にも直結しています。お食事では地元特産の手打ちそばや、人気の「ダムカレー」も味わえます。売店には「サンショウウオの燻製」などの湯西川ならではの土産品が並びます。若湯浴も備えた日帰り温泉施設に無料の足湯、「水陸両用バスツアー」の発着地にもなっています。

14. 思川
小山市大字下国塚25-1
☎0285-38-0201

小山市は東南の玄関口で、豊かな自然や質の高い農産産物が自慢。道の駅「思川」は平成 18 年、県南部を東西に走る国道 50号の中間地点にオープンしました。新鮮な地元野菜やお惣菜、お土産品などが並び「直売・物産・加工施設」をメインに、「レストラン」では小山産黒毛和牛など地元食材を使ったメニューが楽しめます。年間を通して多彩なイベントが催されています。

13. みかも
栃木市藤岡町大田和678
☎0282-62-0990

道の駅「みかも」は県営みかも山公園の南側に位置し、東北自動車道や国道 50 号にも接しています。伝統家屋の曲屋をモチーフにした木造の建物は、曲線を描く大きな屋根が特徴的。直売所には地場産の採れたて野菜や、いちごの季節には「とちおとめ」が並びます。栃木市の『とちぎ小江戸ブランド』商品をはじめ土産品もそろっています。レストランはメニュー豊富でボリュームもたっぷり！

20. 湧水の郷 しおや
塩谷郡塩谷町大字船生3733-1
☎0287-41-6101

道の駅「湧水の郷しおや」は、西に日光連山、北に高原山を望み、南に鬼怒川が流れる素晴らしい景観に囲まれています。直売所には地元農家が栽培した朝採り野菜や塩谷の特産品・加工品、工芸品などが数多く並びます。「そば処かみざくら」の尚仁沢の名水で打つそばは、コシが強く風味が良いと評判。「日光天然氷」を使ったかき氷や「鮎の塩焼き」など、地元の美味しいものが揃っています。

19. やいた
矢板市矢板114-1
☎0287-43-1000

日光や塩原、那須などの有名な観光地への玄関口に位置する矢板市の道の駅「やいた」では、県内一の収穫を誇る地元産のリンゴや朝採り新鮮野菜、100%のリンゴジュースなどの加工品、矢板ブランドに認証された矢板特産品が堪能できます。レストラン「つつじ亭」では、愛情のこもった手作り料理が大人気。環境にやさしい住まいを体感できる「エコモデルハウス」も見学してみてください。

18. しもつけ
下野市薬師寺3720-1
☎0285-38-6631

下野市は生産量全国1位の「かんびょう」が有名ですが、国道 4 号(新 4 号バイパス) 沿いにある道の駅「しもつけ」では他に地場野菜、地元食材を使ったお総菜、加工品、地酒、スイーツ・ジェラートなど、ありとあらゆる話題のグルメが揃っています。近くの「ふれあい館」には室内プールもあり、子ども大人も親子そろって楽しめる人気の施設となっています。

17. にしかた
栃木市西方町元369-1
☎0282-92-0990

道の駅「にしかた」は国道 293 号線沿いにあり、北関東自動車道都賀ICからも約 5 分。周囲を水田に囲まれた大変静かなロケーションです。直売所には地場野菜や特産のいちごが並び、農村レストランでは手打ちそばや地元食材たっぷりの定食メニューが味わえます。「とちおとめ」や「お米」などのオリジナルジェラートも人気です。

24. ましこ
芳賀郡益子町大字長堤2271
☎0285-72-5530

陶芸のまちとして有名な益子町ですが、農業も盛ん。いちごやブルーベリー、お米、豊富な季節野菜など、さまざまなおいしさに出会えます。「ましこのマルシェ」には彩り豊かな果実や野菜、パンやお総菜、スイーツ、工芸品などが豊富に並び、レストラン「ましこのごはん」では地元食材を生かしたメニューが堪能できます。「ましこのコンシェルジュ」で情報を集めて益子散策を楽しんでください。

23. 日光
日光市今市719-1
☎0288-25-7771

道の駅「日光」(日光街道ニコニコ本陣)は、世界遺産として有名な「日光の社寺」、全国有数の温泉地「鬼怒川・川治温泉」など、観光拠点へのゲートタウンに位置する道の駅です。こころのうたミュージアムでは、作曲家「船村徹」氏の名曲と日光の自然・文化遺産が大迫力の3D映像で生かしたメニューが堪能できます。「ましこのコンシェルジュ」で情報を集めて益子散策を楽しんでください。

22. サシバの里 いちかい
芳賀郡市貝町大字市場1270
☎0285-68-3485

駅名にある「サシバ」は絶滅危惧種の小型のタカのこと。市貝町はいちごや梨などの果実や野菜、お米などさまざまな農作物の育成に適しているため、道の駅には新鮮で豊富な農作物が勢ぞろい。手作りも充実。飲食店では、宇都宮産二条大麦を使用したオリジナル地ビールや、旬の食材を豊富に使った里山料理など、気軽立ち寄りでもじっくり滞在しても大満足です。

21. うつのみや ろまんちっく村
宇都宮市新里町丙254
☎028-665-8800

46ha(東京ドーム10個分)の広大な面積に、体験農場ドッグラン、温泉やプールに宿泊施設などがある滞在体験型のファームパークです。地元産新鮮野菜はもちろん惣菜・加工品、鉢花・切花コーナーも充実。飲食店では、宇都宮産二条大麦を使用したオリジナル地ビールや、旬の食材を豊富に使った里山料理など、気軽立ち寄りでもじっくり滞在しても大満足です。

4. 那須高原 友愛の森
那須郡那須町大字高久乙593-8
☎0287-78-0233 (観光交流センター)

那須高原の入口に位置する道の駅「那須高原友愛の森」は、豊かな自然に囲まれた広い敷地内に、買い物や食事、体験などに機能を持つ施設が並んでいます。ふれあいの郷直売所の採れたて新鮮野菜や、軽食コーナーのすいとん・コロケ・ソフトクリーム、工芸館での手作り工芸体験、那須を代表するお土産品がそろった物産センター。那須の魅力がぎゅっと詰まった道の駅となっています。

3. 湯の香しおばら
那須塩原市関谷442
☎0287-35-3420

「塩原温泉郷」の玄関口にあり、観光の交流拠点として、年間を通して多くの利用者で賑わう道の駅「湯の香しおばら」。農産物直売所「アグリバル塩原」には、秋の「高原大根」など畑直送の地元高原野菜をはじめ塩原ならではの珍しい野菜がずらり。農村レストラン「関の里」の地粉うどんや手打ちそば、「もみじ村」の手作りまんじゅうは素材で懐かしい田舎の味が人気です。

2. にのみや
真岡市久下田2204-1
☎0285-73-1110

真岡市の二宮地区は、質・量ともに日本一のいちごの産地。道の駅「にのみや」は、県産いちごの代表選手「とちおとめ」に「スカイベリー」、幻の品種と呼ばれる「とちひめ」など、フレッシュな苺をほぼ一年を通して楽しむことができます。完熟苺がたっぷり入った「とちおとめロールケーキ」や「とちひめジェラート」などは、ここでしか味わえません。

1. もてぎ
芳賀郡茂木町大字茂木1090-1
☎0285-63-5671

道の駅「もてぎ」は栃木県内第1号の道の駅としてオープンして以来、新たなチャレンジで発展し続ける道の駅界のトップリーダー的存在です。素材を厳選した人気の手作りアイスに茂木産の新鮮野菜ももちろん、特産の「ゆず」や「えごま」を使ったバラエティ豊かなオリジナル商品の数々は要チェック。いつも話題に事欠かない駅です。